1966
1月号
No.146
編集兼発行
鮫川村役場
鮫川村公民館
塙町 佐藤印刷所

広報 さめがわ

1月の人口と世帯
人口 7.558(－4)
男 3.741(－4)
女 3.817(0)
世帯数 1236(0)

村長をかこんで村の産業を語る

多頭飼育で採算のとれる畜産に
草地・牧野の造成を進めよう

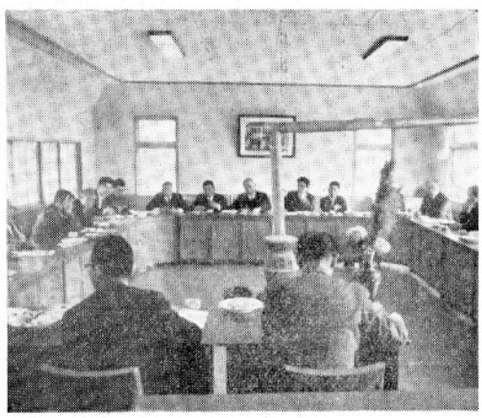
曲り角にきたと言われてから長い年月がたち、今や断崖にたたせられた感のある農業の現状をみつめ、振興対策を話し合うため暮も押し迫った二十三日に、役場会議室で産業団体と生産農家の代表者に集つて頂き石田村長をかこんで座談会を開きました。

この会は身近な問題だけに昼食抜きで午後二時まで四時間ぶつとおしの熱心な話し合いがつづけられました。その全容をお知らせするのは無理ですので、要点のみまとめたものを二回にわたり掲載します。木村産業の振興にいささかでも役だてば幸です。

出席者は次のとおり。
役場…石田村長、金沢課長
農協…芳賀組合長、大平参事
矢吹営農、中井養蚕指導員
農業委…中川西会長 森林…鈴木組合長 たばこ…水野理事 村議会…芳賀議長、藤田副議長 土地改良区…青戸理事長、国島技師
生産者…蛭田武彦、高坂正雄、鷲野谷己之二、円井彦兵衛、北条平、坂本行正、岡部長治
上手内万吉
司会…須藤助役
記録…鈴木公民館主事、窪木主事



生産農家の声をヂカにきく座談会に集つたかたがたは、稲作、和牛、乳牛、養蚕、たばこ、こんにやく、林業と多彩な顔ぶれ。



年わかい青年酪農から、多年の経験にものをいわせる老練な篤農家まで。その語るところは明日の産業への尊い指標となるでしよう。

安全な稲作り

司会―本年は春から異常天候が予想され稲作が心配されましたが、天候の回復と適切な技術対策で克服することができました。これから本村産業の各部門にわたつて経験や抱負を話し合つて頂くわけですが、先ず稲作りから入ります。平坦部で岡部さん如何ですか。

岡部―米質本位で栽培しています。昔は十年を一期として種子を交換してきたが現在は五年になつています。今年は早生を中生種に切りかえて平年作に近い収穫を得ました。

坂本―今年は家内の病気で手がまわらず収穫は期待どおりにいかなかつた。来年は有機質肥料の堆肥を使つて地力を高め、収量を増そうと多くの堆肥を積んでいます。

土手内―異常天候が叫ばれていたので肥料を少なめにして失敗した。基盤整備された土地は地力のムラが多いので適切な指導をお願いしたい。

国島―土地を改良した場合は専門機関の指導を受けて施肥して貰いたい。土質検定など科学的な分析のうえにたつて栽培することが必要でしよう。

司会―四十一年の稲作について過日関係機関で会議が開かれましたが、農協の指導員からお話し願います。

矢吹―村全体の水準を高めながら安全稲作を目標に、地域の実情に応じ品種は二、三品種の組合せでゆく方針です。奨励品種も平坦部、山間部別に定め栽培技術の面も打合せしました。

大平―私は技術的な面はわかりませんが、これからの稲作は安全稲作とともに商品価値の高い米を生産する必要がありましよう。本年のように村を中心とした協同態勢がとられたことはありません。今後もこの形を継続してゆきたいものです。

村長―太陽黒点の極小限を中心とした二、三年間は、気象的に安心できないものです。チラシや回覧で対策を呼びかけるだけでなく、指導機関がもつと親切に農家のフトコロに入つて相談相手になることが必要でしよう。

生産者は積極的な意欲を
補助金ばかりに頼るまい

司会―本村産業のなかで将来もつとも有望視されている畜産に入りますが、そのうちの和牛について研究会会長をしている鷲野谷さんからお話願います。

鷲野谷―私は労力不足なので手間のかからない和牛を飼育しているが、収入は乳牛のほうが多いようです。

大平―村の和牛は一千頭から飼育されているが農協を通じて、市場にでるのは二百頭足らずで他は仲買人に安く買われているようです。

鷲野谷―私のところにも仲買人が数人きたが最高十万円でした。それで市場にだしたら十四万円の値がつきました。

司会―全国的に肉用牛が不足しているので和牛の飼育は有望とみられ、本村でも農業構造改善事業の基幹作目として和牛をとりあげ、県補助をうけて協業経営をすすめまた和牛の貸付を行なつています。

中川西―和牛は馬の代りに役牛として飼育されていたが最近は耕耘機が入つたので、使用せず畜舎に入つていることが多く運動不足になり、受胎率が悪くなつているので放牧地を、数おおく造成する必要があるでしよう。

村長―畜産を振興する基盤は飼料の自給率を高めることにあるので、草地を造成するため、農業構造改善事業では三百町歩の国有林を解放する運動を進めてきたが、既に相当面積の売渡しや共用が決定し、只今大型のブルが入つて牧野造成の作業を進めています。売渡価格も安いところは反当一千円あまりでごく安い対価できまりました。また昨年あたりから村内各地で造成された小規模牧野は県で二十町歩のワクのうち本村が半分の十町歩を買つたわけで、県補助に村補助を加えて実施されたものです。一般的には国有林の解放だけに頼らず、民有林を畜産に併用する途を講ずべきでしよう。それから和牛のことですが、これは元来役牛として固定したものですから、肉用牛としての需要にこたえる現在では品種の改良を考えるべきで、アンガス、シヤロレーなど、またその一代雑種を検討すべきでしよう。畜産のことについては専門の畜産団体などがもつと積極的に事業をやるべきで、何でも行政機関に頼る在り方には問題があります。

大平―村長さんのお話にもあつたようですが、村や農協で何か事業を進めようとすると、最初に補助金をいくら出すとくる（笑）、補助金がないと何もやらない考えを捨てない限り、農業振興はむずかしいのでしようか。

（二面につづく）

議会だより

第十二回鮫川村議会定例会

去る十二月十二日、第十二回議会定例会が招集されました、その結果は次のとおりであります。

(1)会議録署名議員の指名（六番・藤田(佐)、十七番・関根）
(2)会期の決定（一日間）
(3)報告事項　例月出納検査結果報告（十一月分）
(4)議案第四十七号　昭和四十年度鮫川村一般会計補正予算（原案可決）

このたびの補正総額は一千三百一二万八千円で、その内容は和牛協業組合、牧野組合、養蚕協同組合等、農業構造改善事業主体えの補助が主でありその他は、総務費や教育費等の補正であり、これで予算現計は、一億一千九百五十五万七千円となりました。

(5)繼案第四十八号　福島県旧市町村職員恩給組合資産管理組合規約の変更について（件名一部省略）（原案可決）

これは、事務所の位置番地変更と町村合併等に伴う町村数の減少による規約の一部変更であります。

(6)議案第四十九号　固定資産評価審査委員の選任について（原案可決）

任期満了に伴う（鷺野谷己之二氏）後任者の選任で議会では、原案である、赤坂東野字内ケ竜、宗田幸雄氏を選任することに同意しました。

(7)一般質問

第十二回議会は定例会につき、次の議員から一般質問がありました。その質問及び答弁の要旨は次のとおり。

◎十二番　蛭田正議員
① 職員の福祉厚生施設の整備について
② 鮫中運動場の拡充について

◎村長答弁
職員福祉の本旨は安んじて職務に精励できる環境の構成にあるので、身分保障、退職後の生活の安定、保健療養元気回復の措置等は広域的に県の町村職員共済制度を中心に行っているが、村単独ではクラブ活動の充実などで、施設の不足をカバーする方法をとっている。

◎教育長答弁
多年にわたり努力して来たが実現されないため村民運動場を利用して発育盛りの生徒の健康な心身の発達をはかるべく体育時間の割りふりに工夫しながら実施している。
土地関係者の協力により学校より近いところに設置するよう今後努力をしたい。

◎三番　北条正人議員
① 消防団員等の出稼ぎに伴う消防力低下の対策について

◎村長答弁
三六四名の定員中三七名の出稼ぎがあり、他の地区ほどではないが、施設の充実、訓練の徹底で消防力の低下を補うことにしている。今後の推移によっては婦人消防隊の訓練も考慮する。

◎九番　湯座伝議員
① 労力対策と児童対策について
② 山村振興法による指定のことについて

◎村長答弁
山村振興法は議員立法で出来たばかりの法律で予算の裏付が貧弱である。当年度の指定は他の一切の指定がない町村から選ばれたため、産炭地指定になっている当村は該当しなかった。この指定は今後の機会に期待したい。
児童保育施設については前向きで進めている。

◎二番　遠藤正雄議員
① 鮫小戸草分校改築のことについて

◎村長答弁
教育委員会で検討しているが、上学年児童はスクールバス通学。低学年校舎は適当な敷地を選んで新築することが望ましいではないかと思う。

（議会事務局）

成年期地方自治の方向

村長　石田卯子八

新年おめでとう

この年もまた皆様のうえに幸のより多い年でありますようお祈りします

昨年は春以来異常気象のかけごえに脅かされ、七月の土用入りまでは大変心配させられましたが、その後は案外好天が続き、皆様御精進のかえあつて、稲作も平年作近いところへこぎつけることができました。

それでも山間高冷の地域差は争われず、県平均が豊作ということであつても、政府売渡米の割増しだけは敬遠せざるを得ないのが実情です。

「静かな太陽」の年は、二三年続くのが通例といわれますから、今年も備えだけは十分にしたいものです。

ところで村の農業構造改善事業は、今年で最終年次に入り、第一次計画が終ることになります。

これも計画地域の一応の基盤ができるというだけのもので、運営は今後の問題であり指導と育成には万全の対策が必要です。

指導機関としての畜産センターも発足することになりますから活用の面では十分の御協力を得たいと思います。

国有林解放の特別立法は自民党の内部機関で足ぶみしている状態で、期待したほどの前進は見られませんが、わが村の場合、農業構造改善で計画した地区については、概ねその目的を達し、桑園に牧野に、相当面積の売渡しまたは共用が決定したことは、県下最初のケースといえるわけです。



今後は更に一歩を進め、既設の施設を改良育成するとともに、第二次の計画にとりくむべき段階に達しました。

戦後革められた地方自治は初めの十年が播藍期とすれば昭和三十年からの十年は少年期というべく、四十一年の今年からは成年期に入るという見方もありましょう。

安積郡十ケ町村は昨年合併して大郡山市を形成し、常磐五市も今年は大同合併が成立することでしょう。

このような自治体の大型化による行政力の強化が、成年期地方自治のひとつの行き方であろうかと思います。

阿武隈山系低開発地域振興の課題も、局地的な解決はむずかしく、共通の命題のもとに結集された全地域町村の力で推進しなければならないことを強く感じます。

草を食わせて金をとる

採算のとれる酪農に

（1面より）

司会―和牛に次いで酪農に入りますが、若年ながら近代的な経営にとりくんでいる蛭田君の考えをお聞かせ下さい。

蛭田―私は酪農を始めたのは日が浅いのですが、きまった金が入り努力した効果が目にみえて分ることに魅力を感じました。現在は牧野を造成して購入飼料を極力少なくし草を食わせて金をとる方向に努力しています。現在は六頭ですが将来は十三頭ぐらいにする予定です。

司会―坂本さんは前から始めていたようですが。

坂本―歴史は古いのですが蛭田君のように進みませんでした。古い人間ほど進歩がないのでしょう。（笑）、現在は二頭で月二万円ていどの収入です。

村長―こんど法律で原料乳価の不足払い制度ができて乳価が保証されることになりますから一層有望でしょう。しかしこれも一、二頭の小視模では採算がむつかしく、複合経営でいく場合でも五頭位、専業の場合は十五頭以上の飼育を基準として考えていいでしょう。

矢吹―一、二頭でも畑を牧草にしている現状だから五頭以上になるとどうしても牧野が必要になるでしょう。

大平―農協で預かっている乳代金の内容をみると飼料代に半分以上とられています。

蛭田―子をとって乳をしぼるのだから有利なようですが購入飼料をどうして少なくするかが問題です。

芳賀―私は馬に生きてきた人間だが現代は牛に変つてきたので、酪農を初めにやり和牛もやつてみたが、いずれもかんばしくありませんでした。大動物を飼う場合には飼料の問題を先に解決してから始めることが必要でしょう。

村長―酪農戸数は全国的に若干減少しているが頭数はふえている。これは一戸当りの飼養頭数が増加して経営が安定化していくことを意味するものでしょう。本村でも増加していく飼養頭数に見合うだけの草地が併行して造成され採算のとれる健全な経営に伸びていくことを期待したいものです。

（つづく）

（文責　鈴木一）

台所を明るく

このほど東北電力では農家の台所を明るくする運動を始め、照明モデル部落を設置する要項を定めました。

これによると螢光灯二〇W一灯、手許スイッチ、コンセント付で、普通の工事ですと三千円になりますが、今回にかぎり二千円で仕上げるとのことですので、希望者は鮫川散宿所か集金員、メーター検診員、または各地区の婦人会長、農協婦人部長さんに申しこんで下さい。

（東北電力提供）

親と子の話し合いをもとう

成人者代表の座談会

人間が心身ともに成長し大人のとり扱いをうける「成人の日」を前に、終戦の年に生れた成人者の皆さん方は、どんなことを考え社会をどのようにみているだろうか。また成人式の行事のもち方などを話し合つて頂くため、十二月十五日に代表者の方々と青年会役員に集つて頂き座談会を開きました。

参加されたのは成人者十一名、青年会役員三名で司会は鈴木公民館主事、記録…役場窪木主事で話し合いを進めましたが、次にその要点を掲介します。発言者は便宜上ABCDの略号にしました。

訪問着はむだ?

司会―まず成人式について皆さんの考えをお話し下さい。

A―訪問着は費用がかかるが一生に一度だから着てみたい。

司会―皆さん方は用意しましたか…全員が準備した。

青年―私は昨年でしたが着付にひまどり式にまにあわなかつた人もあります。

司会―前の日にすますわけにはゆかないですか。

B―寝ないでいるようです。(笑い)

青年―他の町村では夏に行なうところもあると聞えていますが。

司会―訪問着のことで夏にとの声もありますが、成人の日の意義がうすれるので今のところ一部のようです。訪問着はどのくらいかかります。

C―いつさいそろえると五、六万円はかかります。

司会―嫁に行くとき一枚ぐらいは必要だから無駄ではないとの意見もありますが。

D―柄が派手なので嫁になつてからは着れません。

A―高価なもので染めかえがきくものなら利用できます。

B―一回か二回しか着ないのだから無駄なのですが、自分だけ着ないで出席できないし、先に親のほうが心配してくれます。

C―来年あたり早目に親と子の話し合いをもつたら良いと思います。

くるしかつた子ども時代

司会―行事のもち方について御意見がありませんか。

青年―祝詞の長いのには困ります。

司会―時間は前もつて連絡するのですが長くなる人もいます。来賓の方の良識にまつよりほかにありません。式後のレクはどうでしよう。

青年―訪問着を着ると動けないので無理です。家の人にも見せたいし動きの多い行事はむずかしいでしよう。

司会―行事のもち方については青年会役員の方に研究して頂くとして、成人になられた感想を話し合つて下さい。

D―自分ではとくに意識しませんが親や周囲の人の見る目が変つてくるようです。

司会―子どものころをふりかえつての思い出など。

A―食糧事情が悪くカボチヤなどばかり食わされ、学校え行くのにも着物とモンペでした。

B―子どものころ満足に食物を与えられなかつたので、みんな小さいんでしよう。(笑)

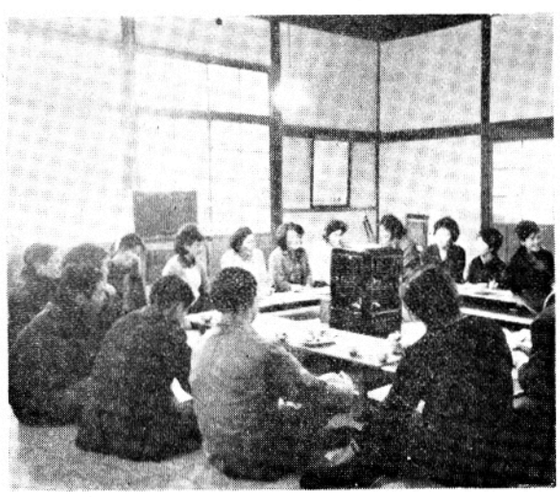
C―今の子どもたちは食物は豊富だし洋服は着ているしD―自分ではとくに意識しませんが親や周囲の人の見る目が変つてくるようです。

司会―子どものころをふりかえつての思い出など。

A―食糧事情が悪くカボチヤなどばかり食わされ、学校え行くのにも着物とモンペでした。

B―子どものころ満足に食物を与えられなかつたので、みんな小さいんでしよう。(笑)

C―今の子どもたちは食物は豊富だし洋服は着ているし



A…戦争の映画や雑誌をみると何のために生きているのか疑問になります。

司会…同級生で高校に進学された方は何人ぐらいです。

B…半分ぐらい絶対数が少なかつたから恵まれていました。

司会…家に残つている人は一年のうち、どのくらい家事を手伝います。

C―あまり手伝つていないが父が何かと用事があり働かないから、女の人が多く働くようになります。

D―農家に嫁がないと騒がいでいますが自分の娘は都会に出してしまうのだから矛盾しています。

レジヤーを楽しめる農家

司会…皆さんは小使をどのくらい使います。

A…農家ですが必要なときもらうから分らない。だが多くはありませんサラリーマンがうらやましい。

司会…サラリーをもらつている方の使い方をお話し頂けませんか。

B…計画はするが自分だけでせいいつぱいで食費もいれられない。結局は自分でみんな使つてしまいます。

司会―さきに農家の嫁さんの話がでましたが皆さん方の考えをお聞きかせ下さい。

C―理解のある人なら行つても良いと思います。

D―相手が良くとも姑さんが問題です。

A―どうせ行くなら大きな農家に嫁ぎたいと言う人もいます。

B―今は兼業している家なら現金収入もあるし生活にユトリがあるので、喜んで行く人が多いようです。

C―兼業農家の嫁さんは可愛想です。知らないことがあつても誰にも教えてもらえずに困つている姿を何度も見うけました。

D―あるていどレジヤーを楽しめる農家なら少しぐらい苦しくても我慢します。

司会―結婚は恋愛ですか見合いですか。

青年―見合いが多いのではないですか、その場合もやはり第一印象でしようね。

A―仲人は口がうまい。いざ嫁になつてみると、まるで違うことがあるでしよう。

B―仲人だけできまることは少ないようです。あるていど交際して相手の性格が分つてから結婚します。

司会―都会からきれいになつた友達が帰つてくるのを見て、どのように感じますか。

C―行きたいとは思いません。

D―行きたいと思うが働けるのが二年ぐらいと思うと実行できません。

司会―予定の時間もだいぶ過ぎましたので、このへんで終りたいと思います。女性の方が多かつたので女性向の話題が中心になりましたが、参考になる話し合いがもてて誠にありがとうございました。

(文責　鈴木)

新鮫川風土記 ④

冬の生活

中井恒雄

鮫川は本県でも最南端に位置しているが、それでも冬にはあたりまえの寒さがやつて来るので、冬の生活には独特な衣服と履物などが用意されて使用される。

室内では暖防器が発達したので、着だるまとなることがないが、外出する時にはオーバーの変りに、わらみのを着て山仕事に出るのである。特に猛吹雪の中での仕事には効能があり、履物はわらでつくつたげんべいぐつをはくのである。

寝具は万年床といわれるわらのふとんを作り、その上に綿のふとんをひいて寝る習慣が、いまでも残つている。

食物の保存と工夫にも独特なものがある。生野菜が寒さのために凍るのを防ぐため、ダイコン穴という貯蔵所を、台所の近くや、いろりの近くや、裏の畑に約一メートル四方の穴を堀つて、この中にダイコン、ゴボー、ニンジン、ジヤガイモなどを入れ、わらや土でおおつておく。ジヤガイモなどは米俵やカマスに入れて台所の天井裏におくのもある。白菜類は新聞紙でくるんで、台所につるしておくのも見られる。漬物は塩漬、こぬか漬、こうじ漬、からし漬などいろいろがある。冬で何といつてもうまいのは汁類だ。冷いきつた身体をあたためるのには、これが一番で、ケンチン汁、粕汁、とうふ汁などをよく作る。



鮫川の冬を歩くと、よく目につくのが冬囲いだ。これは住宅を杉の細木で骨組して、周囲をわらや茅でかこつたもので、直接の寒風や吹雪を防ぐのにはもつてこいなのである。

冬のいろりは、早朝から夜おそくまで燃えつづける、いろり一つで暖房も炊事の煮焼きもするのが普通で、そのいろりに使用する薪の量は実に多く、薪のたくわりの量でその家の大きさがわかるほどで、この薪は秋から冬にかけて伐採し、それを一メートルぐらいに切つて薪とし、枝を集め古柴とにわけて、のき下などに収納しておく。そして、この薪が赤々と燃える時、家族の食事も新しい来客との談笑も夜なべのわら仕事も、すべてこのいろり中心に進められるのである。いわば一家だんらんの和の役割をはたすのである。

告知版

よい子が育つ明るい家庭

～家庭の日を設定～

青少年の不良化防止が叫ばれていますが不良化の原因は家庭にあるようです。現在全国的に「家庭の日」が設けられ明るい家庭づくりの運動が進められています。本県でも毎月第三日曜日を家庭の日と定め、次のようなことを実施することになりました。

この日は家族みんながつごうをつけて、全員顔をそろえましょう。

この日は次のようなことを家庭でとりあげましょう。

●家族全員で話し合いましょう。（話し合い）

●家族全員で楽しみ合いましょう。（レクリエーション）

●家族全員で運動しましょう。（スポーツ）

●家族全員で力を出しあいましょう。（作業）

●そのほか各家庭にあわせてくふうしましょう。

へき地教育の論文入選

西野小校長、古川一郎先生は県教委が募集していた、辺地教育振興論文に「家庭と学校を結ぶ学校だよりを支えとして」の題で応募し、五十六編のなかから選ばれた二十編のうちに入りました。

◇　◇

郡の婦人学級生大会

十二月十八日に郡内の婦人会役員と学級生百五十名が参加して、東白川農商高校鮫川分校で開かれました。写真は分科会で熱心に話し合いをつづける婦人の皆さん方です。





鮫川郵便局提供

「百万円づくり」のプラン

今年こそはと!!　それぞれ抱負や期待をもって迎えられた輝かしき新春、ともどもおめでとうございます。

早々〃百万円づくり〃の夢をお伝え致します。七つのコースで無理なく、たのしく、しかもスピーデーに、夢が実現致します。〃一年の計は元旦にあり〃とやら、今すぐ郵便局の「**ミリオン会**」にお入り下さい。

くわしいことは、郵便局へお問合せ下さい。電話でも結構です。係員がお伺いし、ご相談に応じます。

どうなる郵便料金?

近代化へ躍進しようと云う郵便料金の値上げ問題は、昨年十一月に、郵政審議会からの答申により、郵便料金の体系が大巾に改正され、四月と七月に分けて、それぞれ値上される模様です。

現在の料金体系の基礎は、遠く明治三十三年の郵便法制定のときに、できあがったもので、その後、何度かの改定が行われてきたが、郵便事業が国営であるところから、社会経済、文化の振興という国家政策上、低料金政策を維持するとゝう、基本原則が、つらぬかれてきたものです。

すなわち、はがき五円、てがみ十円は、なんと十四年間もそのままでいたわけです。この様な低料金政策が、いきおい収支のバランスをくずすところまで追い込まれ、今回の値上げ問題と発展したのです

年賀はがきの賞品はお早く

一月二十日からお年玉賞品の引き換えを行います。

幸運を射止めた方は、せつかくの、プレゼントです。お早目に受取つて下さい。当せんした、はがきはくじ番号を切り離さないでお持ち下さい。

国保だより

家族も七割給付

国保が当面している主な問題は二つあります。その一は、国保がほかの医療保険にくらべて給付水準が劣つており（国家公務員の政府健保等は十割です）これを引上げなければならないことです。

その二は、保険財政の健全化を講じなければならないことです。

村では、昭和四十一年一月一日から家族に対しても七割給付することにしました。（これまでは、世帯主に対しては七割、家族に対しては五割給付でした）つまり、病院に支払う患者の皆さんの一部負担金は、世帯主であれ、家族であれ、医療費の三割でよいことになつたわけです。

これで、課題の一つである給付の内容改善が十分ではないが、実現されたことになります。しかしながら、国保には、一方では給付の内容改善をやり、同時に財政対策も講じなければならないという難さがあります。

現在、村の国保は、保険税と国庫補助金でまかなつておりますので、国庫補助金の増額でなお不足する分は、やむを得ず、保険税の増額でおぎなわねばなりません。村民の皆さんの御理解と御協力を切にお願い致します。

（住民課）

お母さんにお答え

無記名で投書された3才児のお母さんに紙上よりお答えします。

村内各所で行なわれた3才児検診でしたので係が日付の記入を誤まつたことが分りました。応待された職員は別の係でしたので内容が良く分らず失礼いたしました。今後このようなことのないよう十分注意しますので御諒承下さい。

（住民課長）

▷皆さん方の苦情をお待ちします。どんなことでも結構です。気がつかずにいることがありますので、皆さんから御指摘頂ければ改善策を講じてゆきます。投書はなるべく住所・氏名を明記して下さい秘密は固く守ります。（編集部　鈴木一）

公民館長に大楽氏選任さる



ながいあいだ公民館長として本村の社会教育振興のために尽されてきた山形孝之氏はこのほど病気のため選職されたので、教育委員会で後任の選任にあたつていたが、去る十二月二十二日に開かれた公民館運営審議会に館長選任が諮問され、慎重に審議されたが全員一致をもつて推せんされた大楽勝男氏を一月一日付で任命しました。

同氏は村議会議員など多くの要職を歴任され、現在は村P連会長、交通安全協会長などの要職にあり、米集荷業を営なむ多忙のなかで、地域社会に尽されている功績は大きなものがあります。公民館改築など大きな問題を控えているときだけに活躍が期待されます。

写真は新館長の大楽勝男氏

陽箭にごす

斗晩

人生きるためにひしめき
去年今年。
大土間の真ン中に据え臼
飾る。
展蘇祝ふしづかさに妻老
ひしやな。
二日妻、畳にとゞく陽箭
にごす。
稚杉を起す一本づつの雪。

納税だより

新年おめでとうございます。

納税につきましては、毎年皆様方の深い御理解と御協力によりまして、全村完全納税の成績をうち建てておりますことに対し心から感謝申し上げます。

十二月中に村税完納運動を実施しましたところ西野区は十二月末日に全区完納の実績をあげ、これまでの前例にない早期完納の成績をうち建てられました。

村では前年に引続き全村完全納税を目標に努力中でございますので、まだ完納されてない方は完納下さるようお願い致します。

年の初めに当り皆様の御多幸と御健康をお祈り申し上げますと共に、本年も御協力下さいますようお願い申し上げます。

（税務課）

おめでた

十二月

石井　中川西まつの（富士雄）
石井　中川西うめの（富士雄）
広畑　斉藤　利己（輔　男）
関下　松本多加子（幸　典）
福原　鈴木　誠二（実　）
大竹　溝井　一郎（信　次）
馬生田　熾木　政彦（長　吉）

おくやみ

十二月

落合　水越　昌美54（直一）
青生野　藤田喜吉25（亀太郎）
戸草　山本森之助82（悦男）
鬼越　円井　文七81（七平）

あとがき

新年おめでとうございます。

あわただしいなかで二つの座談会記事を中心にして編集しました。新年号にしては粗雑すぎてお手元にお届けするには気がひけますが、編集子の原稿作製から編集まで真剣にとりくんだ熱意だけ、買つて頂ければ幸です。本年も皆様方の新聞として親しまれる広報を作る努力をしますので宜しくお願いします。